

## はじめに

平成 30 年度一部改訂版「宅地等開発事業に関する技術マニュアル」の改訂にあたって

### (1)平成30年度版における主な改訂内容について

章	項目	平成 30 年度一部改訂版からの主な改訂内容
1 章	洪水調整池	改訂なし
2 章	下水排除施設	改訂なし
3 章	汚水処理施設	改訂なし
4 章	放流水質	改訂なし
5 章	取付道路等	改訂なし
6 章	道路	改訂なし
7 章	切土	改訂なし
8 章	盛土	改訂なし
9 章	擁壁	① 9- 21p:9-5-3 大型積みブロックの構造範囲 練り積み擁壁として使用不可能な製品例に 「※ただし、建設省告示 1485 号(昭和 40 年6月 14 日)に適合 する製品についてはこの限りではない。」を追記 ② 9-23p:9-6-3 擁壁の透水層について 図7を見易いように訂正
10 章	公園等	改訂なし
11 章	環境保全	改訂なし
12 章	緩衝帯	改訂なし

### 9-5-3 大型積みブロックの構造範囲

・以下の条件を満足しているものに限り練積み擁壁と扱うものとする。

①コンクリートブロック材の面の形状面積が  $0.135\text{m}^2$  を超え  $2.236\text{m}^2$  以下のもの

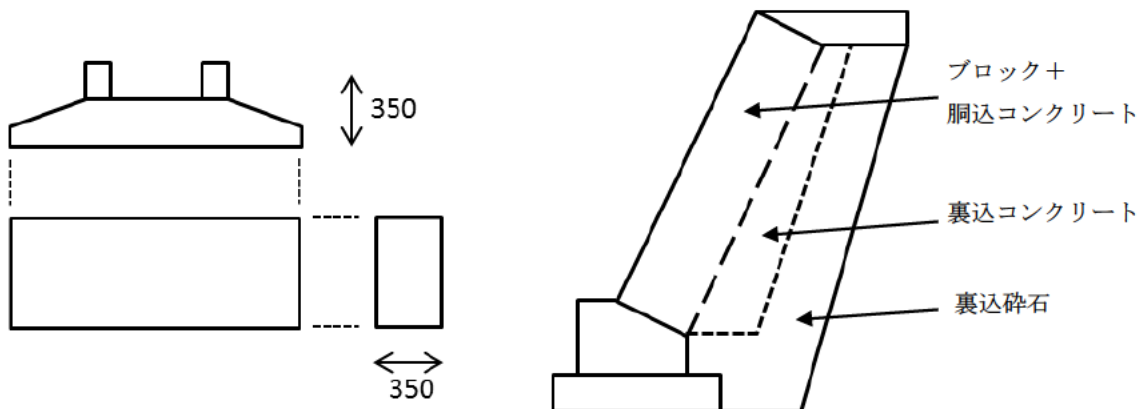
②ブロック控長 35cm、圧縮強度  $21\text{N}/\text{mm}^2$  以上、 $\text{m}^2$  当り質量 350kg 以上のもの

③胴込・裏込コンクリートによって一体となるもの。(一体の考え方については例1を参考にされたい。)

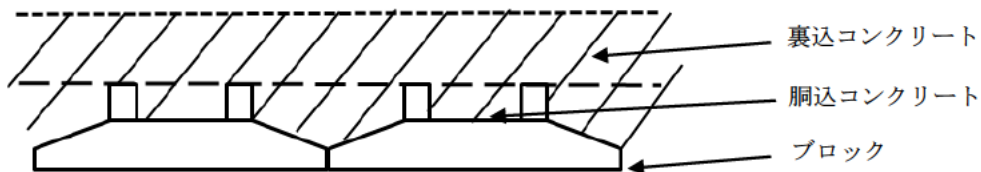
・その他のものについては「9-3-1 二次製品の取り扱いについて」の記載を満足するものに限り使用できるものとする。

#### 例1

・練り積み擁壁として使用可能な製品例

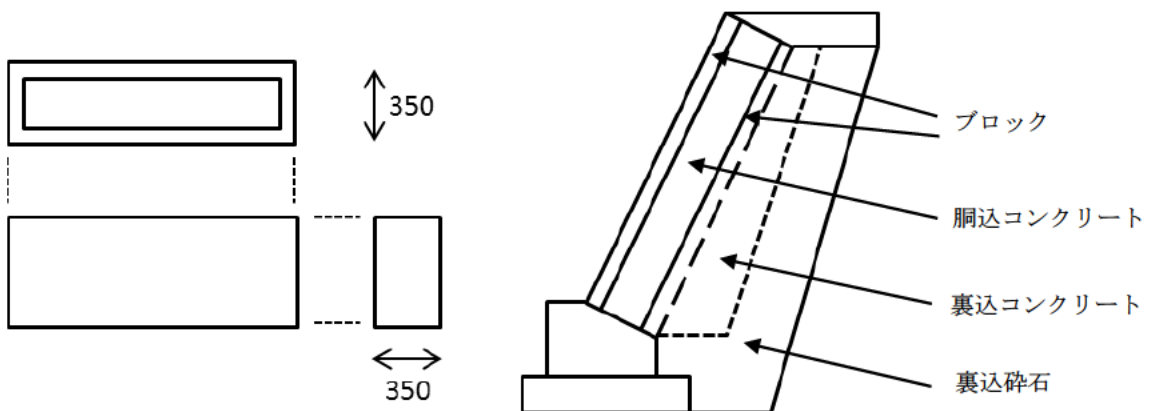


コンクリートブロックと胴込コンクリート・裏込コンクリートが一体

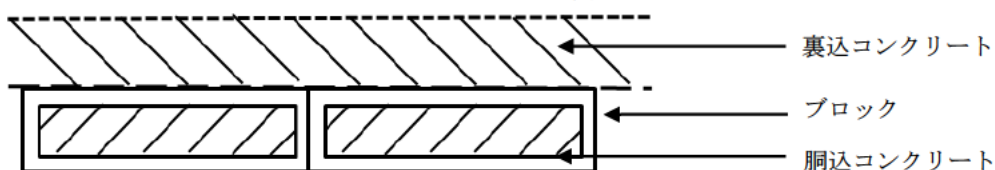


・練り積み擁壁として使用不可能な製品例

※ただし、建設省告示第1485号(昭和40年6月14日)に適合する製品についてはこの限りではない。



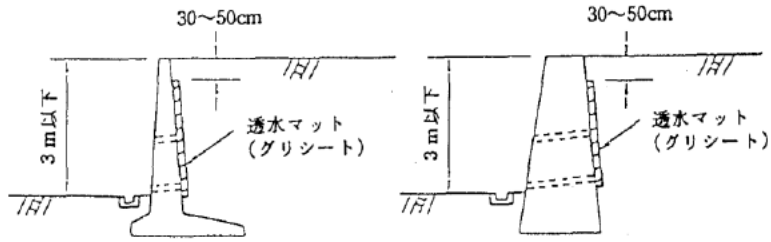
コンクリートブロックと胴込コンクリート・裏込コンクリートが一体でない



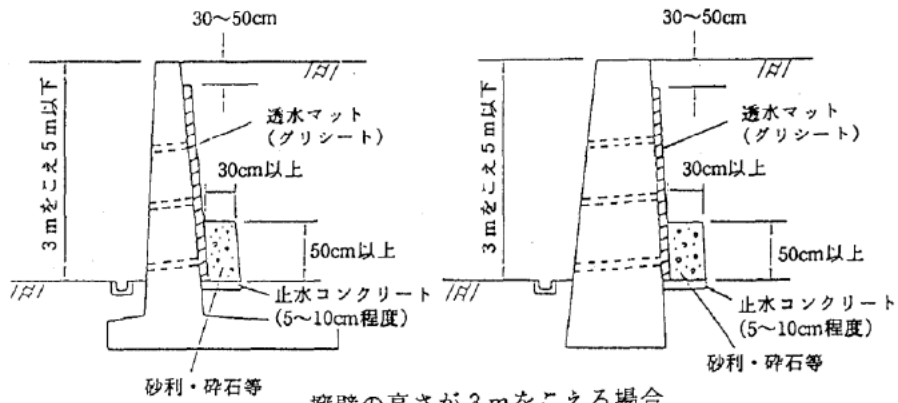
9-6-3 擁壁の透水層について

図7 擁壁高さ別施工形態

(旧)

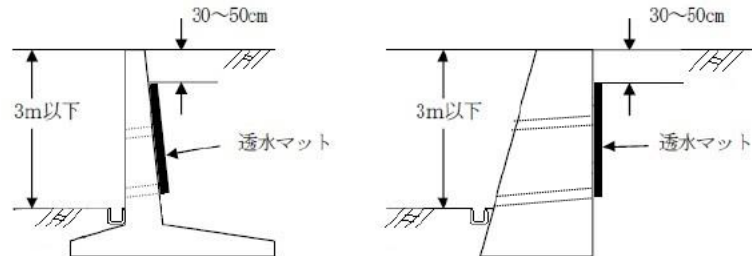


擁壁の高さが3m以下の場合

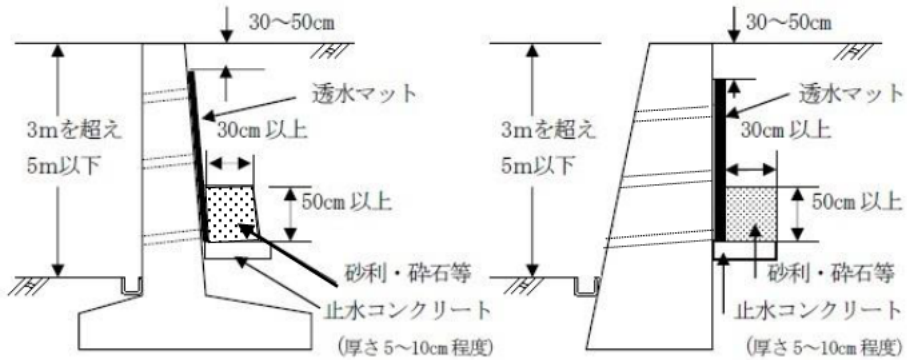


擁壁の高さが3mをこえる場合

(新)



擁壁の高さが3m以下の場合



擁壁の高さが3mをこえる場合